

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

|                             |                                                       |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 名称：打越保育園                    | 種別：保育所                                                |
| 代表者氏名：李 芳植                  | 定員（利用人数）： 70名(60名)                                    |
| 所在地：〒231-0867 横浜市中区打越39     |                                                       |
| TEL：.045-325-8704           | ホームページ：                                               |
| 【施設・事業所の概要】                 |                                                       |
| 開設年月日 1975年 3月 1日           |                                                       |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 マルタ会 |                                                       |
| 職員数                         | 常勤職員： 15名 非常勤職員 8名                                    |
| 専門職員                        | （保育士） 15名 （調理員） 3名                                    |
| 施設・設備<br>の概要                | （居室数） 5室<br>（設備等）多目的室、調理室、シ<br>ャワー室、トイレ、園庭・園庭遊<br>具など |

③ 理念・基本方針

- ・ 保育理念  
キリスト教保育\*神様から委ねられた一人ひとり、かけがえのない子どもたちに愛をもって保育にあたる
- ・ 保育方針  
キリスト教精神に基づいて、心と身体と知識が調和された健全な人間形成をめざす
- ・ 保育目標  
一人ひとりをたくましく育てる
  - 1、 たくましい身体と豊かな心をもつ子ども
  - 2、 自主・自立の生活ができる子ども
  - 3、 友だちのことを思いやれるやさしい心をもつ子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・ 人を愛し、人からも愛される喜びを実感する
- ・ 様々な動きに順応できる能力・体力の育成(体操教室)
- ・ 国際理解(言語・文化体験)

⑤ 第三者評価の受審状況

|               |                                          |
|---------------|------------------------------------------|
| 評価実施期間        | 2022年5月16日（契約日） ～<br>2022年10月4日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 2回（ 2017年度）                              |

⑥ 総評

◇ 特長や今後期待される点

## 【特長】

### ◆一人ひとりの子どもを大切にした保育を実践しています

園は、保育理念に基づき、どの子どももその子らしさを発揮し、共に成長できるように保育しています。職員間で、一人ひとりの子どもの課題を共有し、クラスの枠を超えて連携して支援しています。保育士は、子どもの話に耳を傾けて思いを丁寧に聞き取り、スキンシップをたくさん取って子どもの甘えを受け止め、子どもの発見やできたことを共に喜び、子どもとの信頼関係を築いています。保育士は、前向きな言葉で子どもに話しかけ、子どもの言葉を引き出して、子どもたちはのびのびと自分の思いを言葉や表情で表しています。

保育室にはおもちゃが子どもの手の届くところに置かれていて、自由遊びの時間には、自分で好きな遊びを選んで友だちとあるいは一人で遊びこむことができます。遊びをうまく見つけられない子どもには、保育士が個別に寄り添い、好きな遊びを見つけたら、友だちとの遊びを仲立ちしたりと支援しています。保育士の働きかけもあり、一緒に活動する中で、子どもたちはお互いの違いを認め、共に育っています。

### ◆保育士は、常に自己の保育を振り返り、連携しています

園長は、毎月の職員会議で園が目指す保育の方向性を職員に明示し、保育が理念に沿っているかを確認しています。保育士は、クラスや職員会議で保育の振り返りをし、保育内容が子どもの姿に合っているか、保育士主導ではなく子ども主体の保育になっているかを確認しています。職員会議で具体的な事例をあげて勉強会をしたり、外部研修の報告をしたりしています。指導計画や子どもの記録類には、子ども一人ひとりの園での姿や課題、保育のねらい、評価などが丁寧に記録されていて、子ども主体の保育の実践に向けて取り組んでいることが確認できます。園での経験が長い職員が多いこともあり、職員間の連携はよく、全園児で子どもの様子を共有し、クラスの枠を超えて助け合う風土ができていて、穏やかで落ち着いた保育環境につながっています。

### ◆保護者との信頼関係づくりに力を入れています

園は保護者と連携して子育てができるよう、信頼関係づくりに力を入れています。1・2歳児は毎日、幼児は必要に応じて連絡帳を用いて情報交換しています。玄関に活動の写真を掲示し、その日の活動内容と子どもの姿を記載したノートをおいて保護者に情報提供しています。毎日の送迎時には保護者に声掛けしてコミュニケーションを取り、子どもの様子を伝えて保護者の声を引き出して相談にのり、助言や支援を行っています。保護者からの声を大切に受け止め丁寧に対応していくことで、保護者との信頼関係を築いていて、今回の保護者アンケートでの高い満足度からも読み取れます。

## 【今後期待される点】

### ◆中長期的な視点にたった事業計画の策定が期待されます

園は、職員も参画して年度の事業計画を策定し、キリスト教保育に基づく理念の実践に向けて取り組んでいます。ただし、地域の実情やニーズ、人員体制等の運営上の課題を把握しているものの、それらの情報を中長期的な視点に立って分析し、中長期計画にまとめていくまでには至っていません。将来の職員交代を見据えた中長期的な視点にたった人材育成計画の作成も今後の課題になっています。理念の実現と継続に向けて、中長期的視点にたった課題分析と計画策定、定期的な実施状況の評価が期待されます。

### ◆地域との関係づくりに取り組まれることが期待されます

園は、事業計画や全体的な計画に地域との関わりを掲げているものの、地域との関係づくりに積極的に取り組むまでには至っていません。掲示板等を用いて情報提供し、地域に園の存在の認知度を上げていくことが期待されます。また、オンラインを用い

るなどコロナ禍であっても方法を工夫し、外国籍の子どもへの支援など園の培ってきたノウハウを地域に還元していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の第三者評価から5年の月日が流れ、その時の評価を踏まえ改善を充分にする間もなく5年の月日が経ってしまいました。そして5年のうち2.5年がコロナ禍の中で過ごすことになりました。保育園内で感染者を出さないよう予防、衛生管理の徹底に神経を使いました。また行事、日常保育の活動を縮小、中止せざるを得ない事もありました。その中、保育の質、内容を落とさず保育活動を行ってきました。

今回評価を受けるに当たり、内部で話し合い振り返りの作業を繰り返し行っていく中で問題点が明らかになりました。見落としていたこと、気が付かなかったことを第三者評価委員の方から指摘されました。その一つ一つの指摘を受け止め、改善しより良い保育を目指していくことを職員一同確認しました。

保護者皆さまにはアンケートにご協力頂きありがとうございました。貴重な意見を今後の保育運営に活かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、よこはま地域福祉研究センター及び調査委員の方々に感謝申し上げます。

打越保育園  
園長 李 芳植

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり